1. リージョン

: AWSが世界中でデータセンターをクラスタリングする物理的位置  
 サービス、データ及びアプリケーションに適したリージョンを決定する際には、以下の4 つのビジネス要素を考慮する必要がある。  
 1) データのガバナンスと法的要件の遵守  
 会社と場所によっては、特定の領域でデータを実行する必要がある場合がある。  
 例えば、会社の全てのデータを英国内に保管しなければならない場合には、ロンドンリージョンを選択しなければならない。  
  
 2) 顧客との近接性  
 顧客に近いリージョンを選択すると、顧客にコンテンツをより迅速に提供するのに役立つ。  
  
 3) リージョン内で使用可能なサービス  
 開発者がAmazon Braket(AWS量子コンピューティングプラットフォーム)を使用するアプリケーションをビルドしたいと仮定すると、この過程でAmazon Braketが世界中のすべてのAWSリージョンで提供されないため、開発者はすでにサービスを提供するリージョンの一つでこのプラットフォームを実行しなければならない。  
  
 4) 料金  
 例えば、ブラジルは米国に比べて税金が高いため、アプリケーションを実行すると、米国より50%多くの費用がかかる。 したがってサービス費用はリージョンごとに異なる場合がある

2. 可用領域

:リージョン内の単一データセンターまたはデータセンターグループ  
 AWSのリージョンは利用可能領域(Availability Zone)というさらに小さな単位で隔離される  
 AWSリージョンは3つ以上の可用領域で構成され、各可用領域は少なくとも1つ以上のデータセンター(Internet Data Center)で構成される。 それぞれの利用可能領域は同じリージョンであるにもかかわらず、天災地変、テロなどの不可抗力から備えるため、互いに地理的に遠く離れている。

3. エッジロケーション

: Amazon CloudFrontがより高速なコンテンツ配信のためにお客様に近い位置にコンテンツのコピーをキャッシュするために使用するサイト  
 ITの観点から見ると、データにアクセスしなければならない顧客がムンバイにいるが、データはソウルリージョンでホスティングされるなら、ムンバイ基盤の顧客全員にデータアクセス要請をソウルに送るようにと言う代わりに、ムンバイにコピーをローカルに配置したりキャッシングすればよい。 世界中の顧客にもっと近いところにデータコピーをキャッシングする作業は、コンテンツ伝送ネットワークだ（CDN）。 AWS では、CDN をAmazon Cloud Front と呼ぶ。

4. AWSサービスと相互作用する方法  
 1) AWS Management Console  
 Amazonサービスへのアクセスと管理のためのウェブ基盤インターフェース  
 AWSコンソールモバイルアプリケーションを使用して、リソースモニタリング、アラート表示、決済情報確認などの作業を行うことができる。  
  
 2) AWS Command Line Interface (CLI)  
 API要求を実行する際、時間を節約するために使用可能  
 一つのツールを通じて、コマンドラインから直接複数のAWSサービスを制御することができる。  
  
 3) ソフトウェア開発キット（SDK）  
 プログラミング言語またはプラットフォーム用に設計されたAPIを通じて、AWSサービスをより簡単に使用することができる。 SDKを通じてAWSサービスを既存のアプリケーションと一緒に使用したり、AWSで実行する完全に新しいアプリケーションを生成することができる。  
  
 4) AWS Elastic Beanstalk  
 ユーザがコード及び構成設定を提供すると、Elastic Beanstalkが次の作業を行うのに必要なリソースを配布する。  
 ● 容量調整  
 ● ロード·バランシング  
 ● 自動調整  
 ● アプリケーションステータスモニタリング  
  
 5) AWS CloudFormation  
 コード型インフラツール  
 CloudFormationテンプレートというJSONまたはYAMLテキストベースの文書を使用しており、これらの文書で様々なAWSリソースを定義することができる。  
 スタックを管理する際に実行すべき適切な作業を決定し、エラーを感知すると、変更事項を自動的にロールバックする。